

人にも動物にもやさしいさいたま市へ



DV 被害者支援はワンストップで

東京都目黒区で虐待により衰弱死した5歳の女の子、千葉県野田市の小学4年生の痛ましい虐待死亡事件、両事件とも、根っこのには夫から妻へのDV（ドメスティックバイオレンス）がありました。今、政治は、女性や子どもなど弱いものに対する暴力の根絶と被害者支援に力を尽くすときではないでしょうか。

女性に対する暴力の問題は、日本だけでなく国際的にも重要な課題として位置づけ

られており、「女性2000年会議」で採択された「北京宣言及び行動綱領」でも大きく取り上げられました。2001年には日本でもDV防止法が制定されましたが、まだまだ女性に対する暴力は潜在しており、社会の理解も不十分と言わざるを得ません。

私は議会で、DV被害者支援のワンストップ化と民間支援団体への補助の実施を求めました。さいたま市からは前向きな答弁を得ることができました。

動物の殺処分ゼロをめざして

2017年に社会を震撼させた、猫に対する虐待事件（猫13匹に対し、ガスバーナーであぶるなどの虐待を犯した元税理士が逮捕された）の犯人は、さいたま市に住んでいました。だからこそ「さいたま市は動物の殺処分は行わない、人の命も動物の命も大切にする市になってほしい」という思いで、動物愛護問題を議会で取り上げました。7月に神奈川県動物愛護センターを視察

しました。神奈川県は殺処分ゼロを実現し、動物の命を救うだけでなく、動物たちが責任ある飼い主と互いによきパートナーとして生涯を幸せにくらせる、そんなシェルターとなった新しい動物愛護センターをつくりました。

さいたま市の動物愛護ふれあいセンターも神奈川のセンターのように変えていきたいです。



神奈川県動物愛護センターを視察

仙台市のケヤキ並木



ケヤキの保全計画が必要

日本一長い、埼大通りのケヤキ並木。しかし、さいたま市の所管の北浦和から羽根倉橋までのケヤキの本数は、570本から486本に減ってしまいました。

私はケヤキ並木で有名な仙台を視察し、保全管理の方法を学ぶことができました。仙台では保全計画に基づき、ケヤキの樹高を15～20mと定めています。ケヤキの根は枝

の張り具合と比例するため、樹高をきちんと定めれば、根が上がり歩道を凸凹にすることも少なくなるはず。狭いところに植えられたケヤキでもそれに見合った大きさに定め、愛情をもって管理すれば元気に生きていけるはず」と議会で保全計画の策定を求めました。

公民館のバリアフリー化を進めて

議会で、公民館のバリアフリー化について取り上げました。さいたま市は2017年にエレベーターのない市内の公民館43館す



べてに設置が可能かどうかの駆体調査を実施しました。その結果、16館が設置可能となっています。桜区では、大久保公民館、土合公民館が設置可能です。残念ながら栄和公民館は設置不可能という結果でした。大久保公民館は今年度基本計画、順調に進めば2021年に設置となります。次は土合公民館にエレベーターを設置したいです。

ほかに、聴覚障がい者のための光警報装置、補聴器利用者のためのヒヤリンググループの設置を求め、市から前向きな答弁を得ました。

台風19号 桜区に甚大な被害

台風19号により、桜区全体で床上浸水503件、床下浸水125件という被害が出ました。特に桜田、新開は大変な被害です。被災現場をまわりましたが、浦和卸売市場では「売り物がすべてダメになり3000万円程度の損失」と食品会社の社長が肩を落とされていました。被災者支援を全力で進める必要があります。



浦和卸売市場で要望をうかがう

また、荒川が氾濫危険水位になり避難指示が出ましたが、多くの方が避難をあきらめていました。避難所のあり方を見直しも含め、10月21日、市長に対し、台風対策について申し入れをおこないました。

